

# 日韓知的障害者サッカーフェスティバル

静岡県ハンディキャップサッカー委員会

〒410-0022 静岡県沼津市大岡3155-9 勝又将也宅内

## 助成事業の概要

### 開催目的

地域の知的障害児・者のスポーツ（サッカー）参加促進、技術向上を図る。地域の知的障害児・者が、将来に夢や希望を持ち、積極的に自分自身の社会参加する姿を描けるようにする。

### 開催日時

平成26年8月21日（木）～24日（日）

### 開催場所

韓国仁川広域市

### 内 容

- ・韓国プロチーム仁川ユナイテッド選手による静岡県U20選抜及び仁川選抜合同練習
- ・静岡県U20選抜及び仁川選抜の将来に関する「働く」希望の交換
- ・静岡県U20選抜及び仁川選抜の公式試合
- ・仁川ユナイテッドホーム会場見学
- ・仁川2014アジアパラリンピック会場合同視察

## 事業の成果

4月、5月に行われる2大会を選考大会と位置づけ、広報をしたため、選手選考及び準備がスムーズにいった。各学校、施設等で壮行会等も行われたようで、選手は選抜に選ばれたという自覚が強く持てたようである。Jリーグの公式試合の前に全体壮行会が行われたが、選手の代表からは、「友達を作る」、「試合に勝つ」等の目標が語られ、選ばれなかった選手からは、壮行の言葉として、「もっと練習して、選抜の選手になりたい」

という希望が語られた。

練習会は、合同練習として4回行った。サッカー練習は、東海大学翔陽高等学校中等部に全面的に協力をいただき、試合形式で練習を行なった。新聞にも取り上げられ理解啓発にもつながったと考える。

練習会の折には、サッカーだけでなく、「選抜の自覚」、「旅行で気をつけたいこと」、「旅行の準備」、「将来（働くことの夢）」等を取り上げ、学習会を行なった。そのため韓国遠征中の態度は、生活を主体的に行う、集団行動をするという2点について、互いに声を掛け合う、確認するなど様々な行動で学習会の成果が見られた。また試合に向けてあるいは試合後のミーティングも自分たちで声をかけて始めるなど自主性の育ちを感じた。

働くについては、両国とも最も関心の高いことであり、将来の目標に掲げていることが確認できた。また働くことの動機付けあるいは働くことの継続に、スポーツをはじめとする余暇や生涯学習が大きな意味があることが改めて確認できた。

試合は、7対1と大差であったが、互いに精一杯力を出して戦っていた。特別支援学校、施設の方がたくさん応援に来ていた。他にスキーや卓球等他の障害者のスポーツ団体の長が見学に来ており、交流への関心が高いことが伺えた。仁川広域市の障害者スポーツは、特別支援学校に通う学生が中心で社会人が取り組める環境が整っていないようである。そういった意味でも、先進的試みとして継続の重要性を感じた。

## 成果の広報・公表

経験することの面白さを感じさせたい。

韓国遠征について新聞で取り上げられたこと、Jリーグの試合の前に広報されたことで、障害者のサッカーの認知への一助になったと考える。また県内の障害者サッカーに取り組む選手たちにとって、サッカーを上手になりたい、海外に行きたいという目標が身近に感じることができている。

選手を出していただいた施設、特別支援学校については、遠征の報告会開催を依頼した。このことによって、選手の自覚が高まり、皆の目指す選手へと成長を促せる。なおこの報告会を機に、スポーツをやりたいという方が増え、保護者の障害者スポーツに関する理解が深まると考える。

働くことへの希望等の交換については、関係学校等に配布した。キャリア教育の大切さが言われる中で、身近な資料として、各学校で教材として取り上げることを期待したい。

## 今後の展開

来年度は、静岡県東部地区で開催予定である。静岡県内は、縦に広い地域なので開催地を意図的に変えていくことやその地域の多くのボランティアを募集することで、更なる理解啓発につながると考える。

今年度は、サッカーの交流と将来への希望（働く）が希望であったが、今年の選手同士の交流が大変深まったので、来年度は「友だち」というテーマで、友だちって自分にとってなんなのか、友だちとどう付き合っていきたいのか深く考える機会を作り、韓国の選手と意見交換をすることで自分なりの考えを表現できるようにしていきたい。なお、韓国の選手に和太鼓等の日本の文化に触れる機会を作り、知ること、